

レジオネラ症対策に！塩素濃度がぱっと数値でわかります。

ホテル、温泉
福祉施設向け



HI 701

塩素消毒の重要性

厚生労働省の「循環式浴槽におけるレジオネラ症防止対策マニュアル」では、公衆浴場のお風呂（循環式浴槽）における浴槽水中の遊離残留塩素濃度を、1日2時間以上0.2~0.4mg/Lに保つことが望ましい、とあります。発症の多い梅雨前から夏場にかけてはこの残留塩素濃度の管理が重要視されます。

デジタルチェッカーの必要性

現在、色の濃さを目視で判断する簡易型を使用されている方は多いですが、「色の微妙な違いを判断しづらい」「光の具合や人によって読み取り値が違う」「感覚で読み取ることがある」というお声はよく耳にします。

ハンナの残留塩素チェッカー“HI 701”はデジタル表示で、周囲の明るさや人による差は一切ありません。色の濃さを測定器が読み取り、数値を「ぱっ」と表示しますので安心です！また測定には国で定められたDPD法に準拠した試薬を使用し、信頼性も保障されています。

ホテル/温泉施設の価値向上

温泉施設の充実はそのホテルの強みや付加価値になります。日本人はもちろん、海外の方にも日本独自の温泉は大きな魅力です。その温泉を気持ちよく、安全に利用するためには温泉水の管理が非常に重要です。

その意味で、デジタルチェッカーを使うことは**ホテル/温泉施設の価値・ブランドの向上**に大いに役立ちます。

ウィルス感染症の予防に

温泉施設のレジオネラ症対策はもちろん、新型コロナウイルスを含めたウィルス感染症の予防は非常に重要視されています。次亜塩素酸ナトリウムを希釈した消毒液を使用する場合には、**有効な塩素濃度を維持・確認することがとっても大切**です。なぜかと言うと、時間経過や保管環境で塩素が飛ぶ(抜ける)ため適切な濃度を維持しないと効果が落ちる(なくなる)、ということがあるからです。

上記のHI 701の兄弟機種であるHI 771は500ppmまでの高濃度タイプです。調理器具（食器などのつけ置き）、トイレの便座やドアノブ、手すり等の消毒で使われる200ppmの塩素濃度にも対応できます。



HI 771